



環境の保全と創造を進めるためには、市民、事業者、学校、市などのすべての主体が、環境について学び、環境保全活動に取り組む必要があります。

本基本方針で、それぞれの主体、さまざまな場における取組の進め方を示すにあたり、まず、環境教育や環境保全活動への取組の現状と課題を見ていきます。

### 1 市民における現状と課題

環境教育の主役である市民一人ひとりが、まず、環境に関心を持って、「自分に何ができるのか」を考え、できることから行動することが大切です。そして、市民一人ひとりの取組を、家庭や地域での取組へと広げていくことが必要です。

#### (1) 家庭・地域における現状と課題

##### 現状

##### 環境教育や環境保全活動に取り組む家庭が増えています

○家庭では、電気やガスなどの使用量を減らす省エネルギー活動、緑のカーテン作り、節水、ごみの分別、また自然観察会への参加など、さまざまな活動を実践する家庭が増えています。

##### 課題

##### 市民に身近な地域の間での環境教育を活発化する必要があります

○家庭は、日常生活を通じ、親、子、孫など世代間で、環境に配慮した暮らしの知恵を伝える場、学校や職場などで学んだ取組を実践する場としていくことが必要です。

○核家族や単身世帯が増加しており、地域の人々との接点がないという状況も生じているため、地域における環境への取組などを通じ、人と人とが知り合い、一緒に活動できる場をつくり、地域の連携を深めていくことが必要です。

○自治会などの働きかけによる美化活動やリサイクル活動などを活発化させることが必要です。

○公民館など市民に身近な場所を活用した環境教育への取組の機会を増やすとともに、公民館同士の連携や、公民館と学校、公民館と自治会、その他のさまざまな学習拠点の連携により、効果的に環境教育を進めていくことが必要です。

## (2) 市民活動団体における現状と課題

### 現状

#### 多くの市民活動団体が環境教育に取り組んでいます

○環境に取り組む市民活動団体が市内でさまざまな活動をしています。学習会や自然観察会、緑地保全活動などの実施により、環境教育の機会を提供しています。

### 課題

#### 市民活動団体は自らの活動について情報の提供・共有が必要です

○市民活動団体は、環境教育の取組の現状を整理し、わかりやすく市民に情報を提供し、共有していくことが必要です。

#### 市民活動団体は取組を継続して行うことが大切です

○市民活動団体は、自主的で自立した環境教育の取組を継続して行い、社会的な信用を高めていくことが大切です。

#### コーディネートをする人材が求められます

○市民活動団体には、取組への参加意志のある人や知識や技術を保有する人などと、さまざまな人材や団体などをつなげるコーディネーターとしての役割が求められます。

## 2 事業者における現状と課題

### 現状

#### 事業者の環境に対する意識や取組は高まってきています

○環境の保全や創造の取組、環境ビジネスが、企業の将来を左右する重要な要素という認識は事業者の間に浸透してきています。

○経済界では、CSR（企業の社会的責任）の視点から啓発活動や支援活動を進めています。

○事業者の中には、ISO14001の認証取得など環境負荷低減の自主的な取組が活発化しています。

### 課題

#### 取組の一層の促進やあらゆる事業者への拡大が必要です

○より多くの事業者が積極的に環境の保全や創造、環境教育の機会の提供に取り組むようなさらなる動機付けが必要です。

### 3 学校等における現状と課題

小・中学校における環境教育では全学校に活発な取組を広げるとともに、高等学校でも取組を継続させることが大切です。また、専門的で多分野にわたる人的、物的資源を持つ事業者や大学などとの連携による取組も大切です。

#### (1) 幼児期における現状と課題

##### 現状

##### 関心を持つ機会づくりに取り組んでいます

- 幼稚園、保育所等では身近な動植物とのふれあいなどを通じ、環境への興味や関心を持つ機会づくりを行っています。
- 空き箱やペットボトル等を利用したおもちゃ作りなどを通じ、資源の有効利用に関心を持つ機会づくりを行っています。

##### 課題

##### 幼児期の環境教育の現況把握が必要です

- 幼児期の環境教育の重要性が指摘されています。まず、市内の幼稚園、保育所等における環境教育の取組の現状を把握する必要があります。そのうえで、幼児教育における環境教育のあり方を検討、実施していく必要があります。
- 教職員や保育従事者の環境教育の重要性に対する認識を高め、また教育を行動に結びつけることが課題です。

#### (2) 小・中学校、特別支援学校における現状と課題

##### 現状

##### すべての学校で取り組んでいます

- すべての市立小・中学校、特別支援学校で、総合的な学習の時間などを活用し、発達段階に応じた環境教育を実施しています。

##### 学校ごとに取組を工夫しています

- 学校ごとに取組を工夫し、特色のある取組例が多く見られます。  
例：ホタルの飼育、サクラソウの栽培、学校ビオトープの整備、省エネルギーの推進
- 歴史ある学校では、地域と連携した活動が盛んな例が多く、一方、新しい学校では、屋上緑化や再生可能エネルギー設備の導入などの取組が多く見られます。
- 環境教育の研究指定校を委嘱し、実践的な研究を進めています。

## 課題

### 学校での取組を一層活発化していく必要があります

- それぞれの学校でさまざまな取組が行われており、今後、各学校の取組に関する情報提供や、学校間での情報交換や交流・連携などを進めながら、より多くの学校でさらに活発な取組を進めることが大切です。
- 環境教育を指導する教員のスキルアップ、身近な体験学習の場や機会を増やしたり情報提供したりするなど、学校での取組に対する支援も必要です。
- 地域や市民活動団体、事業者、大学などとの連携により取組を効果的に進めることが大切です。
- 特別支援学校では、幼児・児童・生徒の状況、地域や学校の実態に応じて、活動や体験を重視した環境教育が必要です。

## (3) 高等学校における現状と課題

### 現状

#### 教育活動全体を通じた環境教育を推進しています

- 自主的に環境保全活動を実践する態度を養うため、各教科や総合的な学習の時間などを活用し、学校の教育活動全体を通じた環境教育を推進しています。
- SPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）による環境学習、棚田における田植え体験活動などに取り組んでいる学校もあります。

### 課題

#### 継続的・体系的な環境教育が必要です

- 市内の小・中学校での取組を継続・発展させるため、高等学校においても体系的な環境教育が必要です。
- 各教科、特別活動及び総合的な学習の時間などにおける環境教育の現状を把握したうえで、高校教育における環境教育のあり方を検討、実施していく必要があります。

## 4 市における現状と課題

### 現 状

#### 職員の環境教育を進めています

- 市では、グリーン購入、エネルギーの節約、リサイクルなど、環境の保全や創造に向けた取組を実施しています。また、環境関連施設や区役所においては、ISO14001を認証取得しています。
- ライフスタイルキャンペーンなどの取組を通じた職員の意識啓発や、環境教育、研修も実施しています。

#### 市民の学習の場づくりや、取組の支援を行っています

- 環境教育に関する情報の収集・提供、環境教育の場の提供、機会・プログラムの提供、普及啓発、連携・協働を支える仕組みづくりを実施しています。
- 教育委員会では、学校での環境教育に活用する環境副読本など教材の作成や、教員研修を実施しています。
- 「さいたま市地球温暖化対策地域協議会」を組織し、市民、事業者及び市などの協働のもと温暖化対策への自主的な取組の促進を図っています。同協議会には環境学習の推進に関するワーキンググループも設置されています。
- 市では、「『市民活動の推進』と『市民と行政の協働の促進』に関する指針」(平成18年(2006年))を策定し、市民活動及び協働を推進しています。

### 課 題

#### 市の部局間のネットワークが必要です

- 市のさまざまな部署が環境教育に関係する施策・事業を実施しています。市の部局を超え、市における環境教育の取組全体を把握するためのネットワークが必要です。

#### 市内の取組の情報発信が必要です

- 市内で活動するさまざまな主体、分野における環境教育の取組に関する情報収集力を高め、団体間の活動の連携にも役立つように情報を充実させることが大切です。

#### 取組の継続を支援することが必要です

- すべての主体の環境教育に関する取組を支え、充実した活動を継続して行えるようにすることが必要です。

## 5 すべての主体に共通の課題

### 課題

#### 市内の団体や活動の連携が大切です

○市民、事業者、学校、市などのそれぞれの活動が個々に行われている傾向があります。活動の連携を図り、互いの活動の効果を高めることにより、環境教育全体を一層促進することが大切です。

#### 体験学習の場や情報の提供が必要です

○市内で環境教育に関わる多くの主体により体験学習の重要性が認識されているため、体験学習の場の整備と情報提供をさらに進める必要があります。体験学習の場は、環境教育のために特別に設けられたものだけをいうのではなく、既存の環境関連施設など、環境の保全や創造の実践に関するさまざまな場も含めて考えることができます。

### Question

#### さいたま市民の環境問題に対する関心は？

### Answer

平成20年度に実施した「環境に対する市民意識調査」によると、さいたま市民の関心の高い環境問題は、「ヒートアイランド現象」「緑」「地球温暖化」「ごみ問題」「水質、水辺」などとなっています。

